

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：34316

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24652017

研究課題名(和文)スペイン・ルネサンス思想研究における文献学的実証分析

研究課題名(英文)A Philological Approach to the Spanish Renaissance Thought

研究代表者

安藤 真次郎(Ando, Shinjiro)

龍谷大学・文学部・教授

研究者番号：70309110

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ルネサンス思想という観点から、一般にいう「スペイン黄金世紀」という時代の文化事象を捉え直すことにより、15・16世紀のスペインの独自性を明らかにするとともに、当時のスペインが直面していた問題をヨーロッパおよび新大陸との関係性において考察することで、ヨーロッパ思想史とラテンアメリカ思想史におけるスペイン・ルネサンス思想の位置づけを再検証している。

研究成果の概要(英文)：In this research we reconsidered the original characteristics of Spain in the 15th-16th centuries by analyzing the Spanish Golden Age from the point of view of the Renaissance Thought. In addition, we redefined the Spanish Renaissance Thought in the history of the European and Latin American Thought by studying the issues of the Spain at that time in the political, social and cultural context of Europe and Latin America.

研究分野：スペイン思想史

キーワード：ルネサンス 人文主義 スペイン思想 ユートピア ネブリハ ビーベス ルイス・デ・レオン コルテス

#### 1. 研究開始当初の背景

「スペイン黄金世紀」を真に理解するためには、この文化的繁栄をもたらした基盤としてのスペイン・ルネサンス思想の流れを理解することが不可欠である。しかしながら、従来の日本におけるスペイン・ルネサンス研究は、文学およびスペイン帝国史の側面からの研究に偏っており、思想的な側面からの研究に欠けていると考えたことが今回の研究を始めるきっかけであった。

#### 2. 研究の目的

ルネサンス思想という観点から、一般にいう「スペイン黄金世紀」という時代の文化事象を捉え直すことにより、15・16世紀のスペインの独自性を明らかにするとともに、当時のスペインが直面していた問題をヨーロッパおよび「新大陸」との関係性において考察することで、ヨーロッパ思想史とラテンアメリカ思想史におけるスペイン・ルネサンス思想の位置づけを再検証することである。

#### 3. 研究の方法

(1) スペインのルネサンスは、イタリアで見られたような芸術や自然科学の面よりも、言語、教育思想、宗教文学、「新大陸」植民地化といった面においてより顕著であったと言える。すなわち、スペイン・ルネサンスについて検討するには、「言語問題」「教育問題」「宗教問題」「歴史問題」を中軸に据えるのが有効だと考えられる。

ここに提起した各項目のなかで中心的位置を占めるとされる人物がアントニオ・デ・ネブリハ、フアン・ルイス・ビーベス、フライ・ルイス・デ・レオン、そしてエルナン・コルテスである。これらの4名の人物にスポットを当てれば、スペイン・ルネサンス思想の特徴が鮮明に浮かび上がるのではないかと考えた。そこでネブリハ、ビーベス、ルイス・デ・レオン、コルテスの主要文献を選び、文献学的手法を用いてそれらの分析を行い、上記の四つの問題について考察を行った。

(2) スペイン、メキシコ、イギリスに赴き、現地の大学・公共図書館や書店を訪れ、文献・資料蒐集を行った。

(3) 年4回の定期研究会を実施し、各人の研究の進捗状況を報告しあうとともに、研究の課題について意見交換を行い、知見を共有した。

(4) 2013年9月に京都で開催された「第2回イベロ・アジアにおけるスペイン語圏研究学会 (II Congreso Ibero-Asiático de Hispanistas)」で、マルガリータ・サモラ教授 (米国ウィスコンシン大学マジソン校) を招聘し、パネル形式で研究発表を行った。

#### 4. 研究成果

(1) 具体的な研究成果は、以下の通りである。

「言語問題」に関しては、アントニオ・デ・ネブリハに始まる言語教育改革および国語意識覚醒の結果としての俗語擁護論について考察した。ネブリハについては、ラテン文法書と聖書釈義書の分析を通じて、彼の言語思想の根底には人文主義教育の礎としての言語純化論が貫かれていたことを指摘した。また、16世紀に展開された俗語擁護論については、その起源を15世紀の宮廷で実施された翻訳活動に求め、これがイタリアで興った言語問題に触発されながら、いかにして黄金世紀における文学や論考執筆の基盤となったかという発展プロセスを明らかにすることができた。

この問題については、言語思想史を専門とする岡本信照 (研究分担者) が担当した。

「教育問題」に関しては、基本的には宗教運動であったエラスムス主義が、スペインでは政治的、社会的、文化的領域に広がり、当時の習慣や道徳的環境を刷新する役割を果たし、スペイン独自の特徴を有した知的運動へと発展した点を明らかにした。またエラスムス主義の影響を最も強く受けた一人であるフアン・ルイス・ビーベスの人文主義的教育プログラムを考察し、彼の教育思想において「実践知」がキーワードであり、それがレトリックと道徳哲学の重視という点に表れていることを『学問論』の分析を通して実証した。

この問題については、ルネサンス教育思想史を専門とする安藤真次郎 (研究代表者) が担当した。

「宗教問題」に関しては、異端審問の恐怖および言論の統制に苦しむことになったコンベルソの宗教的な苦悩が、どのような文学的表現となって表れてきたかについて、フライ・ルイス・デ・レオンの作品分析を通じて考察した。本研究で取り上げた彼の『キリストの御名について』については、コンベルソとしての作者の出自とともに、ヘブライ語の知識に基づく聖書解釈の手法などからユダヤ的な遺産の継承をめぐる議論がある。一方でその神秘思想にはイタリアを中心としたルネサンスの知的営為が包摂されている。本研究ではそれらがどのような形で統合されているか、新プラトン主義や牧歌を軸としてその一端を明らかにした。

この問題については、宗教文学を専門とする野村竜仁 (研究分担者) が担当した。

「歴史問題」に関しては、「新大陸」という新たな場を海外に有することで他のヨーロッパ諸国とは異なる世界観を持つに至ったスペインが、そこにコロニアル都市を建設していった史実を、ユートピア思想の具現という観点から考察した。スペイン・ルネサンスは、従来、先住民を人間として見なすか否かという問題提起に答える形で、キリスト教

の布教や先住民擁護論の立場から議論されてきた。しかし、本研究によって、スペイン・ルネサンスは、エルナン・コルテスの征服活動及び植民地政策にも継承されており、その1つの現れが、ルネサンス都市の特徴を備えたメキシコ市建設であったことを明らかにすることができた。

この問題については、ラテンアメリカ史を専門とする立岩礼子（研究分担者）が担当した。

(2) 本研究では、歴史的プロセスに沿った思想形成に鑑みつつ、複眼的な視点からスペイン・ルネサンス思想を考察することで、単に個別の事象の検証に留まることなく、その独自性を総合的に明らかにするように試みた。この共同研究を通して、「新大陸」も含めたスペインにおけるルネサンス思想の流れを明らかにすることができ、日本におけるスペイン・ルネサンス思想の基礎研究の進展に多少なりとも寄与することができたと考えられる。

(3) 研究成果として、平成27(2015)年3月に『スペイン・ルネサンス思想研究における文献学的実証分析』と題する研究成果報告書(273pp.)を100部刊行した。その具体的な内容は下記の通りである。

#### 目次

- ・言語問題としてのルネサンス  
(担当：岡本信照)
- 1. アントニオ・デ・ネブリハの言語思想  
ラテン語著作にみるルネサンス的  
原典批判の方法 (pp.13-36)
- 2. 黄金世紀文学隆盛の基盤としての俗語  
擁護論 (pp.37-61)
- ・教育問題としてのルネサンス  
(担当：安藤真次郎)
- 3. スペイン・エラスムス主義に関する一  
考 察 (pp.65-80)
- 4. ルイス・ビーベスの人文主義教育思想  
レトリックと道德哲学の果たす役  
割について (pp.81-102)
- ・宗教問題としてのルネサンス  
(担当：野村竜仁)
- 5. 宗教問題としてのスペイン・ルネサン  
スに関する予備的考察 (pp.105-125)
- 6. 『キリストの御名について』の異教性  
(pp.127-149)
- ・歴史問題としてのルネサンス  
(担当：立岩礼子)
- 7. エルナン・コルテスに見るルネサンス  
的要素 (pp.153-169)
- 8. ユートピア実現の場としての新大陸都  
市 (pp.171-189)
- 資料 スペイン・ルネサンス関連人物伝  
(pp.191-243)
- 文献一覧 (pp.245-273)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計9件)

### 安藤真次郎

《La educación humanística según Juan Luis Vives》, en Shoji Bando y Mariela Insúa (eds.) *Actas del II Congreso Ibero-Asiático de Hispanistas*, 査読有, Pamplona, Servicio de Publicaciones de la Universidad de Navarra, 2014, pp.523-532.  
<http://hdl.handle.net/10171/37207>

### 岡本信照

《Las ideas lingüísticas de Nebrija en sus obras escritas en latín》, en Shoji Bando y Mariela Insúa (eds.) *Actas del II Congreso Ibero-Asiático de Hispanistas*, 査読有, Pamplona, Servicio de Publicaciones de la Universidad de Navarra, 2014, pp.543-553.  
<http://hdl.handle.net/10171/37209>

### 野村竜仁

《De los nombres de Cristo de Fray Luis de León y la naturaleza bucólica》, en Shoji Bando y Mariela Insúa (eds.) *Actas del II Congreso Ibero-Asiático de Hispanistas*, 査読有, Pamplona, Servicio de Publicaciones de la Universidad de Navarra, 2014, pp.533-541.  
<http://hdl.handle.net/10171/37208>

### 立岩礼子

《Los elementos renacentistas en los escritos de Hernán Cortés》, en Shoji Bando y Mariela Insúa (eds.) *Actas del II Congreso Ibero-Asiático de Hispanistas*, 査読有, Pamplona, Servicio de Publicaciones de la Universidad de Navarra, 2014, pp.555-564.  
<http://hdl.handle.net/10171/37210>

### 岡本信照

『黄金世紀における俗語擁護論の系譜』『スペイン学』査読無、第16号、2014、pp.84-105.

### 野村竜仁

『『キリストの御名について』における牧歌的理想』『神戸外大論叢』査読無、第64巻、第5号、2014、pp.33-44.

### 安藤真次郎

『ルネサンス人文主義における中世後期論理学への批判に関する一考察～ビーベスの『偽論理学者弁駁』を通して～』『スペイン学』査読無、第15号、2013、pp.53-63.

### 岡本信照

『15世紀のフアン2世治下における翻訳活動 国家語形成の一要因として』『スペイン

語世界のことばと文化 III』査読無、2013、  
pp.141-159.

岡本信照

「ネブリハの『弁明書』にみる言語思想」  
『HISPÁNICA』査読有、第56号、2012、pp.1-19.

〔学会発表〕(計4件)

安藤真次郎

《La educación humanística según Juan Luis Vives》, II Congreso Ibero-Asiático de Hispanistas (於：京都外国語大学) 2013年9月22日.

岡本信照

《Las ideas lingüísticas de Nebrija en sus obras escritas en latín》, II Congreso Ibero-Asiático de Hispanistas (於：京都外国語大学) 2013年9月22日.

野村竜仁

《De los nombres de Cristo de Fray Luis de León y la naturaleza bucólica》, II Congreso Ibero-Asiático de Hispanistas (於：京都外国語大学) 2013年9月22日.

立岩礼子

《Los elementos renacentistas en los escritos de Hernán Cortés》, II Congreso Ibero-Asiático de Hispanistas (於：京都外国語大学) 2013年9月22日.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安藤 真次郎 (ANDO, Shinjiro)

龍谷大学・文学部・教授

研究者番号：70309110

(2) 研究分担者

野村 竜仁 (NOMURA, Ryujin)

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：70405364

岡本 信照 (OKAMOTO, Shinsho)

京都外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：90309518

立岩 礼子 (TATEIWA, Reiko)

京都外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：80321058